

第4回 湖西市地域公共交通会議 会議録

日 時：平成29年1月12日（木） 13時30分～15時45分

場 所：湖西市民活動センター2階大会議室

出席者：21人

会長	丸谷 由行	湖西市副市長
副会長	片山 彰宏	湖西市企画部長
座長	伊豆原 浩二	愛知工業大学 客員教授
委員	小林廉（代理）	遠州鉄道株式会社 運輸業務部長
委員	辻村嗣直（代理）	浜松バス株式会社 支配人
委員	杉山 浩一	遠鉄タクシー株式会社 営業部長
委員	堀田 勝之	天竜浜名湖鉄道(株) 常務取締役
委員	平野 洋一	社団法人 静岡県バス協会 専務理事
委員	鈴木 成幸	中部運輸局静岡運輸支局 首席運輸企画専門官
委員	田所奈保子（代理）	静岡県 交通基盤部 地域交通課長
委員	鈴木麻衣子（代理）	静岡県 浜松土木事務所 維持管理課長
委員	小林 次男	静岡県 湖西警察署 交通課長
委員	竹島 清一	湖西市自治会連合会 会長
委員	田内 清之	湖西市老人クラブ連合会 会長
委員	土屋 正征	湖西市社会福祉協議会 会長
委員	佐原 功一郎	湖西市商工会 副会長
委員	内山 安弘	新居町商工会 事務局長
委員	小笠原 昌之	市民委員
委員	佐々木 由美子	市民委員
委員	山本 渉	湖西市 健康福祉部長
委員	青島 一郎	湖西市 都市整備部長
事務局	小林 良治	(株)国際開発コンサルタンツ
事務局	渡辺 一真	(株)国際開発コンサルタンツ
事務局	小林 利幸	湖西市 企画部 市民協働課長
事務局	石田 裕之	湖西市 企画部 市民協働課長代理
事務局	佐原 敬	湖西市 企画部 市民協働課 公共交通係長
事務局	村松 慶太	湖西市 企画部 市民協働課 公共交通係

配付資料：会議次第、名簿、公共交通網形成計画策定スケジュール

1 開会

2 会長挨拶

3 報告事項

平成 28 年度湖西市バス運行評価改善報告書について

<事務局>

- ・資料 1 に基づき説明。

<委員>

・ 9 ページの高校生の利用促進についてはよい試みだと思えます。子供の送迎で駅前が渋滞してしまう事例も多いので、継続した利用促進に努めて下さい。

<委員>

・ 57 ページの日ノ岡バス停の乗り継ぎ時の安全性の確保について、安全性の確保は非常に重要な案件だと思えますので、早急の実施すべきと思えます。何か実施に至っていない障害がありますか。

<事務局>

・ ルートの設定が難しく、現在まで実施できていませんが、来年度中に変更するように早急に調整いたします。

<委員>

・ 最終ページのコーちゃんバスを上手に利用する会など、現在委員を募集中ということですが、市民協働の連携については、委員の地区が偏ることで意見が偏ることのないように配慮頂けたらと思えます。

4 協議事項

協議事項① 湖西市地域公共交通網形成計画(素案)について

<事務局>

- ・資料 2 に基づいて説明。

<委員>

・最後のページの基本方針 3 の乗り継ぎに関する不満割合ということで、乗り継ぎが不便で使わないというような乗らない方のデータも入れた方がよいのではないのでしょうか。

<事務局>

・今回市民アンケートの「利用してない理由」の中で項目を聞いているので、バス利用者だけでなく、「今は利用していないが利用するようになった」という指標も検討させて頂きます。

<委員>

- ・基本方針 4 の指標は「上手に利用する会」だけが事業の件数になるのでしょうか。

<事務局>

・先ほどお知らせした上手に利用する会や、市民団体が自主的に事業を実施するという事も考えられますので、地域としての取り組みも件数として想定しています。基本は市民が主体ですが、市と一緒にやって取り組む事業も件数に含みます。

<委員>

・全体のレクリエーションの増加とありますが、これは公共交通を利用したレクリエーションの数値でしょうか。

<事務局>

・レクリエーション客数の実態として、把握できる数字がないので、形成計画では観光との連携が重要なポイントとしてあります。公共交通の施策として考えていきますが、湖西市全体のレクリエーション件数を掲載させて頂きました。

<委員>

・土日祝の運行要望が出ているところですが、どのように考えていくのか教えて下さい。

<事務局>

・様々なアンケートから土日祝運行の要望がある中、湖西市では新居地域が観光の中心となっていると思います。ただ、循環線新設など、改革的な内容ではなく、今回の計画では、新居の史跡や豊田佐吉記念館などの観光施設などへの運行ダイヤを配慮するような表現にとどまるかと考えます。

<委員>

・17ページのJRの利用者が新居町駅だけ17万人も落ちているのが気になります。乗降客が利用しやすくなるようなバス運行でなければ基本方針の2に反すると思いますので、このような数値を施策に反映させて頂きたいと考えます。

<座長>

・現在ではまだ具体的な施策までは定まっておられません。新居町に関するご意見などがあるなかで、どのような具体的な施策を考えるのが重要かだと思いますので、計画を達成するための事業については次回会議までに設定し報告して下さい。

<委員>

・83ページの広域的な移動ニーズに対応したということは、隣接している豊橋市との連携ということで捉えてよろしいかと思いますが、連携を密にするようにお願いします。

<事務局>

・82ページにあるイメージ図のとおりです。先日も豊橋市、豊鉄バスとの打合せを行いました。隣接

市との連携を実施していきます。

<座長>

・ 昨年は東三河 50 円バスにオブザーバーという形で参加していましたが、今年度は一委員として協力していくと聞いています。県境にこだわらず、実態にあった運行を目指すようにお願いします。

<委員>

・ 86 ページの全体の指標の 2 では、公共交通に関する不満足度割合が 64% となっていますが、できる限り減少させていくようにお願いしたいと思います。

<委員>

・ 83 ページ基本方針 1 の公共交通が果たすべき役割を明確化とはどのようなことを指すのでしょうか。また、85 ページの周辺市の一部とは 82 ページのイメージ図の矢印と考えてよろしいですか。

<事務局>

・ コーちゃんバスを運営開始した当時は天浜線、JR、遠州鉄道浜名線にダイヤ等を合わせるという形をとっていましたが、現在に至って役割が明確でなかったことが効率的ではなかったと考えています。今後は、公共交通として役割を明確にし、効率的にしていくという考えで記載しています。周辺市の一部についてはご確認のとおりで、豊橋の二川地区などを考えています。また、豊鉄バスについてはすぐには実施できないという回答であったので、具体的な記載は避け今後の課題とさせていただきます。

<委員>

・ これは要望ですが、具体的に施策が決まりましたら早期に中身を検討させて頂けるようお願いいたします。

<委員>

・ 37 ページの費用負担について「現状通りでよい」となっていますが、年齢階層によって回答が違うと思いますので年齢階層別に出せれば次回に反映させて頂きたいと思います。

<事務局>

・ 次回までに集計、反映させていただきます。

<委員>

・ 最終ページの指標は新所原駅の指標でよろしいでしょうか。また、お願いでもありますが、拠点駅とはなっておりませんが、知波田駅からの移動についても考慮頂きたいと思います。知波田駅からコーちゃんバスに乗り換えて市内の施設へ向かう移動もあるかと思しますので、具体的な施策において反映して頂ければと思います。

<委員>

・79ページの負担額についてアンケート結果がまとめられていますが、事務局(市)としては負担を増やしても本数など利便性の向上を目指すのか、負担の維持なのか、負担減を目指すのか方針があれば教えてください。

<事務局>

・市の負担額としては約6,100万程度ですが、自主運行バスの負担分を除けば、コーちゃんバスの前身であるふれあいバスと同程度の負担額となっています。市としては、今以上に負担を増やしてバスを運行していくことは考えておりません。負担は現在の水準を維持し、効率的な運行で利便性の向上などを目指していきます。

<座長>

・負担については、利用者増を目指すことで減少させることもできるので、効率的な運行が求められると思います。会議の中でご指摘のあった部分を修正、加筆いたしまして、3月の会議で諮らせて頂きたいと思いますので、基本方針など、大きな流れについてはご承認頂いてよろしいでしょうか。

<異議を求める声なし>

それでは協議事項1については承認とさせていただきます。

協議事項② 生活交通確保計画(案)について

<事務局>

・資料3-1、3-2を基に説明

<委員>

・遠州鉄道(株)の浜名線の評価については、去年は約1,300万を補助しております。評価としてはAとなっておりますが、赤字路線でありますので、事務局や県など、協力して取り組みを行うようお願いいたします。

<座長>

・コーちゃんバス、自主運行バス浜名線だけ良ければいいということではなく、地域の公共交通として、民間、市ともに協力して取り組んでいくようにしてください。補助金も大事な資金ですので、よろしくお願いします。異議なければ承認とさせていただきます。

協議事項③ 地域公共交通確保維持改善事業 平成28年度評価について

<事務局>

・資料4に基づき説明

<委員>

・別添1-2についてですが、フィーダー事業と計画策定事業で1枚ずつ作成するようにお願いします。

<座長>

・この資料は2月15日の中部運輸局で開催される第3者評価委員会で評価を受ける資料となります。この資料を見れば、今湖西市が何をやっているのか、誰でも理解できるようわかりやすい評価資料というものを目指しているところです。市民委員のみなさんはいかがですか。

<委員>

・見やすい資料となっていると思います。

<座長>

・形成計画については、現在までの進行具合で評価を受けることとなります。細部についてはもう一度確認して提出するようにお願いします。異議がなければ承認とさせていただきます。

協議事項④ 運転免許証自主返納等によるバス無料乗車券交付について

<事務局>

・資料5に基づき説明

<委員>

・現在、75歳以上の市民には高齢者バス乗車券を一年3,300円分、申請者に交付しているが、利用者は把握しているか。また、湖西市に住民登録のあることとしていますが、介護施設に入所している人などはどうなりますか。

<事務局>

・介護施設入所者に関しましても、湖西市に住民登録のある方を対象と考えています。

<委員>

・高齢者バス乗車券については健康福祉部の事業になりますが、利用者は毎月報告があり、把握しています。

<委員>

・手続きの方法で、“危機管理課で運転免許証自主返納補助金の申し込みをした場合、申請書の記入を省略する”とはどのような意味ですか。

<事務局>

・危機管理課では、運転経歴証明の発行費用を助成する事業を行っています。危機管理課において申請書の申し込みをした場合、市民協働課にその書類の写しを頂き、申請書に2回記入する手間を省くように考えております。

<委員>

- ・どの程度の負担増を見込んでいるのか。

<事務局>

・利用者の目安としては、湖西市の免許証返納の実績から100人/年程度、過去三年となりますと、初年度は200人の申し込みがあるのではないかと想定しています。どれだけ利用をするのかわかりませんが、今後試算していきます。

<整備部長>

- ・支援内容の括弧に一人1回のみ利用で、とあるが誤りでは。

<事務局>

- ・ご指摘のとおりです。一人1回のみ発行と訂正します。

<委員>

・近年、運転免許証の自主返納者は増加傾向にあります。警察としては、自主返納して頂くことは交通事故防止の観点からも非常に重要だと考えており、同時に、自主返納された方を市がどのようにサポートしていくのかも重要でありますのでこのような試みはよいことだと考えます。高齢者バス乗車券については今回の無料乗車券との重複について検討が必要かと思えます。

<委員>

・高齢者バス券については、高齢者の方から3割程度の方から申請となっていますが、バスを利用できないから申請をしないという意見もあります。今回の事業は統合失調症や認知症といった方は無料券をもらっても利用できないかもしれません。また、高齢者バス券はタクシーでも使えるように検討しているところです。今回の無料券はタクシーも利用できるよう検討しているのか確認させて顶きたい。

<座長>

- ・タクシーの高齢者助成は市民協働課の管轄ですか。

<会長>

・公共交通として、バスで行くのか、タクシーで行くのかというケーススタディの中で方針は考えておりますが、認知症などの議論については未だなされていないところです。健康福祉部長の発言は新たな指示に基づくもので、その点は庁内で調整していく必要のあることかと考えます。

<座長>

- ・高齢者バス券と無料券の重複する部分については、湖西市内での調整をお願い申し上げます。

<委員>

- ・担当レベルでの調整を開始しております。

<会長>

- ・市民協働課で示させて頂いたのは5,100万のバスにかかる予算で、健康福祉部では制度と財源が違います。その部分の基本的な部分はこれから調整していかなければならないと思います。

<座長>

- ・制度を作ること自体はよいことだと思います、ただ、他市の事例を挙げれば制度を上手く使えるようになるには利用の仕方を考えなければなりませんので、老人クラブなどの主体と協力して活用できるようお願いします。

異議がなければ承認とさせていただきます。

5 その他

<委員>

- ・様々なアンケートを取っているが、実際に乗っている人の意見や、乗らない人の意見を拾えているかは疑問が残る。市民の本当の声を聴くことができるよう、アンケート等の意見収集の方法も事務局にはよく勉強して頂いて、反映できるような体制をお願いします。

<事務局>

- ・それでは第4回会議を終了いたします。

以上